

市立病院に関する市民説明会・意見交換会

～在り方検討委員会の答申について～

市では、条例に基づいて設置された「名張市立病院在り方検討委員会」(医療関係者や学識経験者など7人で構成)に「名張市立病院の目指すべき将来像及びその役割」について諮問。これを受け、全7回、1年にわたって議論いただき、2月13日、答申を受けました。

市民の皆さんに答申の概要をご説明するため、「市民説明会・意見交換会」を開催します。率直なご意見をお聴かせいただき、今後の方針を検討する際に参考といたします。

☎ 市立病院 医事経営室 ☎ 61・1100



答申の内容や議事録は市立病院HPに掲載



市民説明会・意見交換会 (市内3会場で実施 / いずれの会場も同様の内容です)

- ▶ 5月27日(土) 午後2時～3時30分 / 防災センター (鴻之台1)
- ▶ 5月28日(日) 午前10時～11時30分 / 桔梗が丘市民センター (桔梗が丘6)
- ▶ 5月30日(火) 午後7時～8時30分 / 教育センター (百合が丘西5)

対象 名張市民、名張市立病院で医療サービスの提供を受けている人
出席者 市長、副院長、事務局長ほか 定員 各会場50人程度
◎申込不要。当日の開始15分前から受け付けます。

答申 骨子

① 経営形態を地方独立行政法人に

地方独立行政法人は組織の自由度が高い。職員の一人ひとりが、診療の質の向上や、患者さんのための接客改善などを目指し、明確な目的意識をもって働くことが求められる中、最もふさわしい形態である。その上で、救急医療や小児医療などの政策医療に対しては、市も責任を持つべきである。

② 地域における連携をさらに緊密に

地域で持続的な医療提供体制を確保していくために、医療機関の役割分担と連携体制の強化が必要。さらに、診療所や介護施設、薬局、教育施設など、様々な組織との地域連携を密にすることで、市全体で市立病院を支えていこうとする意識を高める必要がある。



#サンロードのアーケード無くなるってよ

"ハッシュタグキャンペーン"で、一人ひとりの「まちへの想い」を紡ぐ

動画も公開



上本町商店街振興組合は、アーケードの記憶を留める動画を作成。商店街の皆さんが出演しました。洋品店の田畑勢津子さんは、「撮影時には、50年間の懐かしい思い出が込み上げてきましたね。若い人たちが盛り上げてくれているので、私たちが頑張らなくちゃ」とニコリ



あれから、およそ50年――

「上本町サンロード商店街」のアーケードが完成したのは昭和49年。住宅地造成や道路網の整備が進み、人口が急増していく頃でした。

あれからおよそ50年――。最盛期には、約50店舗が営業していた「上本町サンロード商店街」も、郊外への大型スーパーの進出や後継者不足などから、現在営業しているのは7店舗に。アーケードも老朽化し、維持管理が難しくなったことから、上本町商店街振興組合は撤去を決定し、2月中旬から解体作業が始まっています。

昭和レトロなアーケードのある風景を残そう

「アーケードのある風景を、みんなで残せたら」。そう考えたのは、商店街の米穀店で育った富永憲秀さん(右下写真)。アーケードの写真や、「# (ハッシュタグ) サンロードのアーケード無くなるってよ」を付けて、Instagramで投稿してもらおうキャンペーンを始めると、「この古びた雰囲気がいい」「学校帰りは、ここを通ると涼しかったな」「寂しいからちゃんと記憶に残しとこ」「心惹かれる魅力は案外身近にあった」「長い間お疲れ様でした」――。一人ひとりの想いが込められたコメントとともに100件を超える作品が寄せられました。



「Re:START! 上本町」で発表されたキャンペーンの優秀3作品。「子どもと過ごした思い出の場所が無くなるのは寂しいけど、名張市街地をはじめ、今ある身近で素敵な風景を発信していきたい」と受賞者のひとり伊藤夕紀さん(市内在住/副賞の伊賀米と)



新時代の幕開け! サンロードに差す希望の光

4月16日には、商店街の再出発を応援するイベント「Re:START! 上本町」が開催され、キッチンカー、飲食ブースなどで多くの人で賑わい、新たな思い出の1ページが加わりました。「今日は新時代の幕開け。仮想空間上での店舗運営といった新たな試みや、若い世代がもっとまちに関わっていけるような取組を進めながら、いろんな人とながって、賑わいを取り戻していきたい」と富永さん。屋根の無くなった商店街には、新たな希望の光が差し始めています。

